

# 小児科専門研修プログラム

- 研修期間 3年
- 募集人数 13名
- 選考方法 書類・面接
- 専門医 小児科専門医

## ■ 研修概要

本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く小児科の研修を行います。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて3年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることを目指してまいります。

## ■ 特色

①豊富な症例数、②豊富な小児科専門医育成実績、③充実した指導体制に集約できます。各病院と新潟大学小児科の各専門領域（感染症、腎臓、血液・腫瘍、循環器、内分泌・代謝、新生児、神経、救急、集中治療、アレルギー-膠原病、心身症など）の医師の間には、顔が見える距離での緊密な連携が保たれており、「気になる」症例について、専攻医から各専門領域の医師に直接コンサルテーション（メールや電話）が日常的に行われております。当然、重症例や稀少疾患などの緊急の搬送もスムーズに行われていますので、十分なバックアップの下に患者の診療に取り組むことができます。このような連携は、小児を取り巻く医療提供体制が複雑な都市部では実現しにくいものであり、地域医療を担う地方都市ならではの特筆すべき点です。特に新潟県はその規模が大きく、本プログラムでカバーする医療圏の人口はおおよそ210万人（小児人口22万）ですので、専攻医数と比較すれば、十分な症例経験を積むことができます。



## ■ 指導医からのメッセージ

小児科の初期研修で最も重要なのが、確実な病歴聴取と身体所見から鑑別診断をあげ、適切な検査を行い、診断し、そして治療につなげる、この1連の思考過程を多くの症例を通じて、繰り返しトレーニングすることです。本プログラムでは、小児科医は、子どもの総合医であることを前提に、上記の思考過程を基本とし、豊富な臨床経験を積むことが可能です。また、若手小児科医のためのBasic Core Lecture（年4回）などを通じ、最新の実践的な小児科診療に役立つ知識と技術の習得が継続的に可能です。

## ■ 連携施設

長岡赤十字病院 新潟市民病院 県立新発田病院 魚沼基幹病院 鶴岡市立荘内病院 長岡中央総合病院 済生会新潟病院 佐渡総合病院 済生会新潟県中央基幹病院 成育医療研究センター 県立中央病院 など

## ■ 研修実施責任者

新潟大学医学部総合病院  
小児科教授

齋藤 昭彦



## ■ 研修コース

### ■ 基本コース

研修期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設で小児科一般の研修 (NICUでの研修含む)											
2年目	連携施設または関連施設で小児科一般の研修 (NICUでの研修及び地域医療など) 専門医取得のための論文作成											
3年目	大学病院で総合小児科医としての研修6ヶ月間または1年間 連携施設または関連施設での研修（成育医療研究センターでの救急研修も可）											

### ■ 週間スケジュール例

	月	火	水	木	金	土・日
8:15~8:45	モーニング・カンファレンス (インタラクティブな症例検討、学生指導、抄読会、専門医による講義)					日当直業務 Basic Core Lecture (年4回) など
9:00~12:00	外来治療番・病棟業務。学生、研修医、指導医との回診					
12:00~13:00	昼食、ランチョンセミナーなど					
13:00~17:15	外来治療番・病棟業務。診療班による検討会など		総合回診	病棟業務、振り返り等		

## 問合せ先

総括医長 小川洋平  
TEL: 025-227-2222 E-mail: yohei\_oga@yahoo.co.jp  
FAX: 025-227-0778 URL: <http://www.med.niigata-u.ac.jp/ped/>

